

大館市プレミアム商品券 発行事業及び大館市生活 支援商品券交付事業

地域経済活性化を目的とした「大館市プレミアム商品券発行事業」は、市の補助金1億円をプレミアム分として発行総額6億円で実施し、6月17日の発売からわずか3日間で完売となりました。

利用期限は11月30日までですが、7月末現在、事業者からの商品券の換金請求額は2億8358万円で、市内の消費喚起が図られていると考えます。

低所得者などを支援するための「大館市生活支援商品券交付事業」は、支給対象世帯は9577世帯で、このうち8496世帯に商品券を交付して、交付率は88・7%、交付総額は4248万円です。

一方で、交付を辞退された世帯が436世帯ありました。また、交付申請の意思表示のない世帯など645世帯について、申請期間を当初の7月末から9月30日までに延長し、再度周知を図って、より多くの対象世帯に申請していただけるよう努めます。



地方創生先行型事業の取組状況

市の魅力を首都圏や海外に発信する「忠犬ハチ公のふるさと大館・首都圏発信事業」については、7月25日と26日に、首都圏で働く女性を対象としたモニターツアーを実施しました。



応募者129人の中から抽選で決定した5人の参加者には、農家民宿に宿泊しながらの農業体験や曲げわっぱ作り体験などのほか、移住してきたかたの体験談を聞いていただきました。ツアーの様子は日経ウーマン10月号などに掲載され、全国に発信されます。

「海外からの教育旅行誘致」については、6月23日から25日にかけて台湾で開催された日本政府観光局主催の「訪日教育旅行現地説明会」に参加し、大館市のブースを訪れた台湾の学校関係者に対して、市の自然や食文化、体験型メニューなどをPRしました。

市の伝統工芸品や食材の素晴らしさを広く知ってもらうための「大館市地域資源プロモーション事業」については、5月30日と31日に、東京都内二子玉川駅前で開催された「曲げわっぱ作り体験イベント」を、また8月4日と5日には市内のレストランのシェフによる食材探しのツアーを実施しました。

秋には、都内のホテルで市の食材を使用した「大館フェア」を開催予定です。

大館市観光大使の任命

今年7月1日から2年間の任期で、白神フーズ株式会社社長の根田哲雄氏、東京藝術大学准教授の中村政人氏、日経BPヒット総合研究所所長の麓幸子氏、シンガーソングライターの因幡晃氏、女優の真飛聖氏の5氏に加えて、新たに、秋田犬保存会東京都支部長の川北晃右氏、東日本旅客鉄道株式会社渋谷駅長の中村圭氏の2氏、そして8月3日からは、NPO法人地域力創生プロジェクト理事長の近江屋信広氏の計8名の方々に市の観光大使を引き受けていただくことになりました。

委嘱状交付式は、7月22日、東京都内で開催された大館市首都圏企業懇談会の場で行いました。観光大使の方々には、機会を捉えて市のPR活動を展開していただくほか、市発展のための意見を頂き、観光施策などに反映させていきます。

※9月8日にマリンバ奏者の布谷史人さんも任命され、観光大使は9名となりました。

歴史的風致維持向上計画 策定への取組状況

ふる里おおだて再生のため、「歴史まちづくり法」による「歴史的風致維持向上計画」の策定に全力を挙げて取り組んでいます。

5月と6月に計画策定に向け国や県

と事前協議を行い、6月2日には市の関係部署で「準備会」を立ち上げ、調査などを行ってきました。

7月15日には国土交通省や文化庁、農林水産省によるヒアリング、また7月28日には先進地である弘前市を視察し、史実の積み重ねの具体化方を学ばせていただきました。

更に、8月11日と12日には、国土交通省の担当官が大館入りし、現地調査や政策的な助言をいただきました。

この計画の認定までは約2年かかる見込みですが、今後、市民対象の地区座談会やフォーラムの開催など、実りある計画を策定できるよう努めます。

そのほかの報告

- ・ 保育料の算定誤り及び後期高齢者医療保険料の納期限記載誤り
- ・ 7月25日の大雨による被害状況等
- ・ 大館市合併10周年記念式典の開催
- ・ 大館市総合防災訓練の実施
- ・ 平成26年度の市税等の収入状況と未収債権対策
- ・ 大館市エコフェアの開催
- ・ 環境マネジメントシステムの認証登録の維持
- ・ 農作物の生育状況等
- ・ 雇用情勢
- ・ 夏季イベントの開催状況
- ・ 平成27年度成人式
- ・ 公金の保管・運用における国債等の活用
- ・ 熱中症による救急搬送の状況
- ・ 公共事業の進捗状況